悠野集

冬

土岐文庫
文庫17
W46
6

文庫 17
W46
6

昭和六十年二月一日
贈
寄

01018519490 1

立冬

初冬雲
初冬時雨
初冬
初冬惜秋
初冬天
初冬風
森初冬
山中初冬
初冬雪
初冬霜
初冬野
海邊初冬
山居冬至
荒庭冬来
閑居冬来
名所初冬
山家初冬
時雨
初時雨
驚時雨
初冬傷老
初冬夕
時雨告冬
曉時雨
朝時雨
聞時雨
獨聞時雨
夜聞時雨
終夜聞時雨
寢覺聞時雨
夕時雨
夜時雨
月前時雨
時雨易晴
時雨易過
時雨驚夢
閑夜時雨
時雨晴陰
風前時雨
時雨過
時雨晴
時雨交風
時雨頻
時雨遠近
東西時雨
時雨所々
山時雨
山中時雨
遠山時雨
深山時雨
時雨廻山
時雨染山
峯時雨
岡時雨

山路時雨　野時雨　原時雨　野徑時雨　時雨染野
名所時雨　海邊時雨　浦時雨　海路時雨　磯時雨
磯屋時雨　河邊時雨　滝邊時雨　樹陰時雨　松風仮時雨
檜原時雨　森時雨　山家時雨　里時雨　閑居時雨
庵時雨　屋上時雨　時雨混落葉　行路時雨　旅中時雨
旅宿時雨　旅泊時雨　時雨仮涙　涙爲時雨　時雨霑袖
寄時雨述懷　紅葉　山皆紅葉　殘紅葉　紅葉殘梢
時雨染紅葉　時雨添紅葉　紅葉厭風　夜思紅葉　紅葉欲散
紅葉散　紅葉不殘　紅葉落衣　紅葉滿庭　紅葉浮水
落葉　落葉有聲　聞落葉　夜聞落葉　夜々聞落葉
曉聞落葉　翫落葉　落葉殘秋　落葉脆　落葉類

落葉不休　落葉不駐　葉落不殘　落葉不待風　落葉更厭風
風拂落葉　落葉風　風前落葉　落葉隨風　落葉如雨
雨中落葉　落葉交雨　雨後落葉　朝落葉　夕落葉
夜落葉　落葉驚夢　月前落葉　月照落葉　山中落葉
峯落葉　名所落葉　橋上落葉　落葉埋橋　葉落水紅
水路落葉　河落葉　水上落葉　落葉遮流　落葉掩水
落葉埋水　落葉藏水　落葉浮水　落葉浮浪　谷落葉
瀧落葉　落葉染瀧　湖上落葉　海上落葉　浦落葉
旅宿落葉　旅行落葉　閑路落葉　山路落葉　行路落葉
落葉埋路　故郷落葉　古砌落葉　山家落葉　荒屋落葉
閑居落葉　屋上落葉　窓落葉　禁庭落葉　庭上落葉

落葉藏庭　閑庭落葉　松間落葉　落葉如錦　見落葉有興
社邊落葉　寄神祇落葉　寄落葉雜　殘菊　每朝見殘菊
凋殘菊　庭上殘菊　殘菊薫閨　野殘菊　水邊殘菊
殘菊映水　籬殘菊　殘菊帶霜　霜後殘菊　雨中殘菊
殘菊邑人　惜殘菊　霜　露結爲霜　深夜霜
朝霜　夕霜　橋上霜　行路霜　山路霜
野外霜　草霜　岡草霜　篠霜　竹霜
樹上霜　葉上霜　霜埋落葉　霜滿庭　旅宿霜
寄霜述懷　氷　氷知冬　氷初結　薄氷
氷滿　厚氷　朝氷　夜氷　氷逐夜結
月光映氷　谷氷　谷氷如鏡　河上氷　滝氷

池氷　池氷作鏡　井氷　懸桶氷　葦間氷
氷路氷　江氷　古渡寒氷　湖邊氷　浦氷
崎氷　漢邊氷　汀氷　山家氷　氷閉山水
氷停水聲　寒氷閉萍　氷駐舟　網代邊氷　名所氷
袖氷　寄氷述懷　寒草（冬草同）　寒草疎　海邊寒草
水邊寒草　河邊寒草　野寒草　田邊冬草　月照寒草
寒芦　江上寒芦　浮寒芦　寒芦隔水　寒松
山寒松　寒松風　寒樹嵐　寒樹風　枯野
冬月（寒月同）　冬月冴　霜曉月　每夜月冴　霜夜月
冬明月　老見寒月　雲間冬月　雨後冬月　風前寒月
葉落月明　月出寒山　冬山月　森冬月　冬閑月

水邊寒月　河冬月　渡寒月　浦冬月　湖上冬月
池上寒月　社頭寒月　名所冬月　因家冬月　月照旅宿
庭上寒月　冬殘月　寒夜月　冬月待人　霰
霰如玉　曉霰　夕霰　夜霰　深夜霰　聞霰
山霰　深山霰　野霰　柏霰　柴霰
霰交落葉　行路霰　海邊霰　山家霰　閑居霰
閑居聞霰　屋上霰　庭霰　月前千鳥
殘月聞千鳥　風前千鳥　曉千鳥　曙千鳥　朝千鳥
每朝聞千鳥　夕千鳥　夜千鳥　寒夜千鳥　深夜千鳥
終夜叫千鳥　千鳥驚眠　寢覺聞千鳥　月前千鳥　風前千鳥
聞千鳥　遠千鳥　近千鳥　名所千鳥　湖上千鳥

海邊千鳥　溪千鳥　浦千鳥　浦傳千鳥　濱千鳥
磯千鳥　崎千鳥　島千鳥　深千鳥　渚千鳥
葦間千鳥　千鳥驚波　千鳥驚船　海路千鳥　船中聞千鳥
旅泊千鳥　舊宿千鳥　閑路千鳥　行路千鳥　千鳥有跡
千鳥當跡　寄千鳥恨　水鳥　夜水鳥　寒夜水鳥
深夜水鳥　月前水鳥　寢覺聞水鳥　夜思水鳥　朝水鳥
夕水鳥　水鳥帶霜　水鳥拂霜　氷閉水鳥　水鳥近劇
水鳥晝　池水鳥　葦間水鳥　水鳥遊藻　淺邊水鳥
谷水鳥　江水鳥　海水鳥　島水鳥　鳩
鴨　鷺鷥　寄水鳥述懷　水鳥有跡　網代
夜網代　月照網代　紅葉當網代　名所網代　網代興

寄綱代述懷　雲

葉上初雪　山初雪　雪　初雪　朝初雪

行路初雪　淺雪　山居初雪　峯初雪　松上初雪

夕雪　夜雪　曉望山雪　曙雪　朝雪

月照山雪　月夜雪　夜思山雪　雪似月　月照雪

積雪　雪俄深　風前雪　聞雪折　雪深

雪似白雪　雪似花　連日雪　雲外雪　雲間雪

山雪　山中雪　雪先春花　雪如梅花　梅枝雪積

岡雪　峯雪　深山雪　遠山雪　嶽雪

名山雪　山深雪　麓雪　雪滿高根　雪滿羣山

野亭雪　松雪　野雪　原上雪　野徑雪

山路雪　山路雪深　雪埋山路

山村雪　關雪　關路滿雪　行路雪　行路深雪

旅中雪　旅宿雪　雪中旅行　馬上雪　古溪雪

橋上雪　雪埋古橋　水邊雪　氷上雪　池邊雪

海邊雪　浦雪　濱雪　浦雪　湖邊雪

名所雪　伏見里雪　里雪　山里雪　山里深雪

山居雪　山家雪　山家雪深　山家雪朝　山家掛雪

閑居雪　庵雪　雪埋屋　庭雪　庭雪厭跡

庭雪似月　洛陽雪　禁中雪　古宮雪　故郷雪

故郷雪深　社頭雪　社邊雪　雪中古寺　森雪

山樹雪深　嶺樹雪深　雪埋樹　樹頭雪　雪混落葉

雪埋落葉　松上雪　雪埋古松　松雪深　雪埋松樹

雪埋庭松　亂松上雪　雪作松樹花　雪落於長松　秋雪
雪埋竹　竹雪　雪落衣　掛頭帶雪　雪中興
望山雪　雪中眺望　雪中遠望　雪朝眺望　雪中遠情
雪中窓人　雪中待友　雪中無来客　雪中訪人　雪中尋人
雪中客来　友待雪　老人憐雪　寄雪傷老　雪中幽思
寄雪延思　雪朝嘆老　寄雪述懐　雪中述懐　寄雪祝
寄雪神祇　雪知豊年　歳暮雪　野行幸　鷹狩
朝鷹狩　夕鷹狩　晩頭鷹狩　鷹狩日暮　日二鷹狩
雪中鷹狩　狩場霧　野鷹狩　澤鷹狩　炭竈
朝炭竈　炭竈烟　炭竈雲　雪中炭竈　深山炭竈
里炭竈　谷炭竈　埋火　炉火同　寒夜炉火　閑夜埋火

埋火仮春　豊明節會　辰日節會　五節舞姫　加茂臨時祭
臨時祭還立　神樂　雪中神樂　禁中神樂　夜神樂
月前神樂　里神樂　佛名　雪中佛名　佛名到暁
佛名朝　早梅　冬梅同　雪中梅花　雪中早梅　早梅交雪
梅花先春　梅閑待春　梅告春近　歳欲暮　歳暮
惜歳暮　年々惜歳暮　傷歳暮　驚歳暮　暮歳暮
悔歳暮　送年　歳暮忙　急歳暮　雪中歳暮
雪與歳深　雪中送年　歳暮月　歳暮梅　歳暮松
河歳暮　歳暮筏　海邊歳暮　雪の[illegible]小　歳暮急於水
歳暮早於水　歳暮如流　寄物歳暮寄波　寄雪　寄木
寄弓　寄駒　閑中歳暮

老後歳暮　老人惜年　老傷歳暮　老人憐歳暮　歳暮述懐
歳暮言志　歳暮思昔　歳暮懐舊　歳暮待人　歳暮惜別
旅中歳暮　旅宿歳暮　歳暮祝　待春　依花待春
閑居待春　老後待春　植梅待春　除夜待春　春卜隣
除夜　惜除夜　驚除夜　傷除夜　除夜傷老
雪中除夜　禁中除夜　野外除夜　魂祭　冬天
冬星　冬日　冬雲　冬雨　冬露
冬風　冬嵐　冬朝嵐　冬烟　冬暁
冬曙　冬朝　冬夕　冬夜　冬夜長
冬夜雞曙　冬寝覺　冬地儀　冬山　冬深山
冬野　冬野也〻　冬朝　冬川　川冬

冬浮草　冬瀧　冬谷　冬海邊
冬漁火　水路冬　冬舩　水郷冬
冬社頭　名所冬　冬田　冬山田
山家冬　山家冬烟　冬山居　冬閑居
冬庭　冬籠　冬食　冬衣
冬木　冬埋木　冬花　冬蔭
冬獣　冬鳥　冬鷹　冬鶴
冬蟲　冬人車　寒閨獨臥　冬夜夢
冬旅行　冬旅　冬別　冬餞別
水郷冬望　冬遠　冬香　冬色
冬鐘　冬遠情　冬幽思　冬述懐
冬浦朝　故郷冬　冬懐舊　冬聲
冬田家　冬床　冬植物　冬竹
霜夜鶴　寒夜旅宿　冬眺望　冬懐舊

冬釋教　冬神祇　冬祝　十月　閏十月

十一月　十二月　閏十二月

早稲田大学図書

恋歌部集出之

冬之部

初冬

冬之

初冬時雨

初冬天

初冬風

初冬雲

初冬霜

初冬雪

初冬霜　　信実

初冬野　　右大臣

寒初冬

山中初冬

海辺初冬　　前内大臣

名所初冬　　小倉山麓の紅葉を

山家初冬

山路冬至　　藤原為家

荒屋冬草　　前内大臣

初初冬　　前内大臣

初冬傍花　　前内大臣

初冬夕　　前内大臣

時雨

初時雨

菊時雨

紅葉時雨

時雨先冬

暁時雨　太大臣

朝時雨　忠信

夕時雨　俊家朝臣

夜時雨　義経

夜半時雨　西園寺入道

絶板以時雨　道忠

独夜聞時雨　ひとり

寝覚時雨　馬内侍

小大臣

良房

撫律

讀人不知

康宗

宗信

時雨頻り

時雨交風

時雨色

東路時雨

時雨所々

山時雨

山中時雨

遠山時雨

深山時雨

時雨過山

時雨染山

峯時雨

里時雨

山路時雨

野時雨

原時雨

里程時雨

時雨後霽
名所時雨
海辺時雨
浦時雨
海鳥時雨
磯時雨
磯屋時雨
河屋時雨
橋屋時雨
樹陰時雨
紅葉時雨

代 長月八日風雨強く篠竜田くもぐるて世ゝ小雨なりし
時雨 月 神無月まゝ義しかれども雨ぬかるに世い来小
後撰 名所きくべ前まゝの山ゝ雨ぐもれい哀殊ら家ゝ
物 時雨小ぬ世紅木葉ゝ紅なら家ゝ山ゝ三笠山ゝ
続 紅ゝ小鳥がゝ雨の手ゝ
千 色ゝ茶ゝ色ゝ濃の浦ゝ稲葉よゝ雨雨ゝ紅ゝ
代 松風の音ゝ時きくべ海辺時雨
千 寒くゝ哀ゝ長ゝ雨ゝ
月 磯ゝ屋ゝ磯の苔ゝの村雨雨長波の打ゝ
代 浦ゝ波ゝ時きくべ
一 ゝ雨ゝ三笠山ゝ三笠山ゝの雨いと松ゝ雨降ゝ
代 竜ゝ雨ゝ木陰ゝ雨降ゝ雨雨降ゝ
千 雨雨ゝ降ゝ雨の二ゝ雨ゝ雨ゝ紅ゝ
月 雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ

り 高ゝ
高ゝ
高雨響
知家
影慶
後拾遺
生方
ゝ流吉
寒家
影照
勝命
雅西
土佐門院
寒家

橋原時雨
森時雨
山家時雨

代 風強く雨ゝの時雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
時雨 月 雨雨降ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
後撰 神無月ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
千 炭竈小橋の家ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
月 雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
続 秋ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
代 山里ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
物 村雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
後撰 長雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
代 時雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
物 松ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
代 さゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
時雨 今 雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ

里時雨
不尽時雨
庵時雨
屋上時雨

九条
経国
丸淵
伊頼
飛仮
定雅
家助
雅正
益房
惟方
八道方
俊信
宗尋
佐

代 冬のさびしさの木葉は黄ばみ色づくもの
有 ずくるぶす木葉をもれば神世月時雨ふる袖ぬれて
今 わしとの世こそ拾うた結人の思ひ知れて
いとどしく歌うきふる神世月結の元ふる涙時雨
千 筆枕月じ結の袖ふる時雨の
山 ひとなく鹿ぬぐふ小ちる時雨結の袖をこぼれて
形 まぞうる雲の落ふ結の袖ぬれて
月 稲刈る家古ぬぬぬぬる家の枕ふ物ぬぬ
形 ふるとい時雨せぬぬぬぬ袖ふ濡
形 つぬぬぬ神世月とい来ふ濡ぬ時雨
代 神世月いぬぬふる世の中ふ濡ぬ濡ぬ
形 暁の袖見ふる時雨ぬぬぬ袖ぬぬ
形 ぬぬぬ袖ぬぬる濡ぬ袖ぬ時雨
代 ぬぬぬぬぬぬぬ濡ぬ時雨

右大臣 逸基
小海 慎主
小侍従 仲綱
後白川院 護命
覚昭 元方
忠見 家宗
僧岐 塔基

り 旅の時雨
旅中時雨
旅者時雨

結伯時雨
時雨降
降鳥時雨
時雨雲袖

寄時雨述懐

紅葉

世中ふ秋ぬ濡ぬ時雨の月のいぬぬぬぬ
晴ぬぬ時雨ぬ時雨ぬ時雨ぬ秋ぬ時雨ぬ
結ぬふふぬぬぬぬ時雨ぬぬぬぬぬ
古ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

和泉式部
紀貫之
藤原定家

せとうの

後拾遺
代 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
代 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
今 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
月 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
拾遺 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
代 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

山皆紅葉
秋の紅葉

紅葉秋梢
時雨降紅葉
時雨降紅葉

保昌
和泉式部
稲口
通俊
い可
良房
孔部
乃清

紅葉敷風　大伴池主
夜田紅葉　恵美人
紅葉歌　玄内
紅葉歌　遠保山家
紅葉歌　家持
紅葉歌　家集
紅葉歌　宗尚
紅葉歌　好忠
紅葉歌　經朝
紅葉歌　西園寺入道
紅葉浮水　伊世
紅葉　中務

代　神世月河の紅葉ばかりの山の紅葉ばかりのまい
代　ひとの山の紅葉ばかりのまい
秋　第五　秋の歌
代　神世月嵐の吹る村雨の紅葉ばかりの
〃　吹風の黄ばかりてまさりの紅葉ばかりの
詞　色ばかりの紅葉ばかりの
物　秋　歌　歌　歌

落葉誘秋　後拾遺　落葉積る紅葉ばかりなれば大井河のあなたより秋はとまる　信濃
代　風の吹小ぶるわくごとに秋の歌の紅葉はちれ　ち任
旬　常ぶことに秋をみしほどに紅葉ぶれ　和泉
落葉驚心　今　秋は月いとまなきの場るんあぶの紅葉と浦き波と　愛慶
　　　

義素交雨

旬深義素

朝義素

夕義素

夜義素

暮義素

有明の義素

後撰

秋はぎ月はなかりしかとも小秋はぎ
はなかりしかとも秋はぎとそ人の記憶
千
木の葉のうつろふとしりつゝ
新
風の音小はなかりしかとも秋はぎ小はなるとそ見る
詞
花はなかりしかとも秋はぎ
自
一村の山の色はなかりしかとも秋はぎ小はなるとそ見る
代
この山小又はいとゝ木葉
自
はなかりしかとも秋小はれて木の葉をなる物そ
新
人はなかりしかとも秋の山の松葉
新
月小なかりしかとも秋の夕はなかりしかとも秋の夜
後撰
木葉はなかりしかとも秋はなかりしかとも秋の夜
後撰
この八月の月の光小義はなかりしかとも秋の夜
後撰
もみぢ葉の色と成るる木葉
金
秋はなかりしかとも秋の夜
月小なかりしかとも秋の夜

後撰
人をたに
逢坂
雲雀
中務
夏草
後撰
塗籠
伊勢
見西
好忠
益田
紀貫
弁乳母
小野
後撰

動
久しかりしかとも秋の月
自
はなかりしかとも秋はなかりしかとも秋の月
新
はなかりしかとも秋の月新小見
自
義はなかりしかとも秋の夜
自
山中義素

峯義素

名所義素

橋上義素

義素埋穂

動
久しかりしかとも秋はなかりしかとも秋
自
はなかりしかとも秋はなかりしかとも秋の月新小見
新
はなかりしかとも秋の月
自
義はなかりしかとも秋の夜
代
嵐小はなかりしかとも秋はなかりしかとも秋
代
色新小見かりしかとも秋小見かりしかとも秋
代
はなかりしかとも秋の三笠山小木葉義
代
はなかりしかとも秋はなかりしかとも秋の
代
義小この木葉流るゝ大井河の紅葉
後撰
嵐吹三笠山の見ぬ日の川は錦なりけり
新
見ぬ日の葉の見ぬ日の川は錦なりけり
代
見ぬ日の天の川せの秋はなかりしかとも秋の夜
金
小倉山峯の嵐の吹かしかとも谷の紅葉小見
自
はなかりしかとも秋小見かりしかとも秋の夜
代
大井河の紅葉小見かりしかとも秋の夜

後撰
定家
信明
斐之
強正
大江為忠
賀之
西行
能因
貴船
敦基
敦経
敦季

水流落葉

河落葉

水上落葉

落葉遮流

落葉筏

落葉埋水

落葉藏水

落葉浮波

落葉浮流

落葉流

落葉

落葉染筏

湖上落葉

海上落葉

浦落葉

旅宿落葉

旅の落葉　代　わくらはの道別ぬ小笹ふる木葉小紅葉八山の淵の色　知之
朝旅落葉　千　もみぢの色紅小菊くれなゐ白川の関　釈宗
　　同　紅小はぎ書葉ふるさと紅葉　顕成
山路落葉　月　木葉ちる立田の山ぬ秋の色　金　三条山紅葉　宣房
り　紅葉　代　もみぢの葉しくはの里に流ぬ小紅葉　経信
落葉埋路　千　あれはの庭ぬ木葉小紅葉　雲雀
あれは落葉　月　色ぬ心ぬ秋ぬ嵐小いひ　雲雀　わ山　おば園小木葉つくる人　知
古物落葉　代　若代上小木葉　雲雀　嵐　雲雀
山寺落葉　代　木枯小この代ぬる山里ぬ寂ぬ人ぬ　知
荒屋落葉　月　春小枯ぬ命ぬ　隆信
不老落葉　古　さくら　文　とりぬ　千　まつ　ぬ　ぬ　ぬ

殘菊

代 家づかへの木葉とたゝ小萩枯ぬ宮の庭でり（初しん
古 秋と迄て冬枯もうら枯ぬ業氣稀（うら枯ぬ増れど
詞 業枯の冬ことよせ家の菊の迄て法せる白菊哉
雅 菊ゆ〻枯と見るどいの白菊の稀（哀と歎ぐ〻ま
長 知るく枯ぬ〻ぬ〻ぬ〻

山路霜　　実茂
野小霜　　法性寺入道
草霜　　九条
器草霜　　定家
篠霜　　定家
外霜　　西園寺八条
樹上霜　　経正
葉上霜　　義国
霜埋落葉　　家隆
霜降庭　　源家
結霜　　志貴皇子
高霜床懐　　触宣
　　義国
氷　　秋宗

代　是拾遺山路の月小峰越てゆくや袖小霜ぞ結ぶる
〃　世ぐるんべ尾花ばかりを見ぬ村落枯葉が末小霜ぞ置ける
自　篠竹葉小ぐらく家いまさらや秋逝霜小亟霜る
代　さく外の霜の色の草根小もとぐらく霜
〃　冬ながら一枝二枝ばかりの篠の和をまと
代　亟遠ひ重ねる霜小霜をば家をつくねる霜の色
自　冬ながら梢の葉白く霜さえて物さびるさまの
形　ものすごく葉いちのつ落ちる冬ぞうらぶれ小冬の
自　梢より庭上もそなはる霜ぬ枯疑はれ
　　霜積る木葉ぶ上小霜白妙清ぬ
　　霜ぐり野の狩ぶ小霜浅ぬ霜ぬ
　　年ぬくて星ぬいぬぐく霜髪のひとり霜小
形　世中ぬ霜ぬ霜小浅霜のうえ分ぬ亟西霜
　　いぬぐく小ぬ月ぬ光ぬ霜ぬ冴ぬ氷ぬ小ぬ

氷　　仲経
氷初冬　　源仲
氷始張　　季経
薄氷　　為仲
　　長算
氷陽　　小野
厚氷　　孝善
朝氷　　元輔
夜氷　　赤子内堅
氷底夜結
月光映氷
若氷

自　氷ぬ底ぬ夜ぬ結ぬ月ぬ光ぬ映ぬ氷ぬ
代　山川ぬ氷ぬ結ぬ初ぬ冬ぬ月ぬ明ぬ
〃　氷ぬ底ぬ夜ぬ結ぬ月ぬ光ぬ映ぬ氷ぬ
古　大ぬ底ぬ月ぬ光ぬ清ぬ氷ぬ
〃　此日ぬ寒ぬ秋ぬ暮ぬ小ぬ氷ぬ
形　消ぬ残ぬ雪ぬ小ぬ薄ぬ氷ぬ
金　ぬ島ぬ山ぬ氷ぬ枕ぬ
代　すぬ海ぬ氷ぬ小ぬ
〃　沖ぬ小ぬ氷ぬ
後拾遺　ぬ氷ぬ
代　ぬ氷ぬ若ぬ小ぬ
後拾遺　ぬ氷ぬ
　　冬ぬ氷ぬ
後拾遺　ぬ氷ぬ
　　月ぬ光ぬ氷ぬ

若狭姫鏡　小侍従
阿上氷　内大臣
滝氷　崇徳院
池氷　板政
池氷作鏡　直茂△
井氷　友則
盤樋氷　伊賀
葦間氷　重俊
氷路氷　遠人知
　　朱雀
　　輔仁親王
　　能宣朝臣
　　頼基△
　　俊綱

江氷
古度氷
湖水氷
浦氷　寄人
陵氷
行氷
山家氷
水閉　山氷
氷僧　山家氷
　　氷
　　天川氷
　　氷

寒氷閑萍　代　あふるるそぐるよりれば浮草ながれ　和泉式部
氷駐舟　金　たゆたゆと流れやすき舟ぢ　二十七
網代邊氷　代　網代とは水ぞそそぐ　為家
名所くめ　後　あまそそぐ水の川風さえわたる　讃人不知
袖の氷　後　心ひつく袖のうらかぜ　同
寄氷述懷　後　波川分すぐ水の澄　今
寒草　文草同　城のめぐ水ぐ揚沢　雅
　　代　世中かさびしき拍の葉　好史
　　代　撥せる沢べ　通季
　　代　いつくかう方をばくさん　長方
　　月　海辺を学　金　水底を学　代　川を学　代　撥せるのとなりの濱萩
野寒学　六　野　野寒学　野　田底冬草　野　月世界を学　野　野寒学　野　野寒学　野　野寒

寒樹嵐　重綱卿

枯野　式子内親王

冬月　寒月同題　後鳥羽院

冬月海　慈円

霜晩月　俊成卫門

冬月海　定家

毎夜月海　実氏

雪月　恵慶

冬月　大弐三位

雪中月　藤原為家

雨後冬月　良暹

月前雪　定家

風雪の冬月　道信朝臣

冬月　後鳥羽院

冬月海　俊成

冬月　式子内親王

冬月　実氏

冬月　慈円

冬月海　俊成

冬月　実氏

冬月　慈円

冬月海　定家

冬月　良暹

雨後冬月　定家

月前雪　道信朝臣

風雪の冬月　後鳥羽院

冬月　俊成

冬月海

有出寒山

月

月

月

霞ぬる
梅霞
白霞
花霞
春霞
関霞
山霞
深山霞
野霞
柏霞
柴霞
霞交蒼海

霞ぬる　家持
梅霞　家隆
白霞　良經
花霞　長方
春霞　東院入道
関霞　法性寺入道
山霞　白房
深山霞　崇徳院
野霞　家隆
柏霞　土御門内

り霞
山霞
深霞
閑居霞
屋上霞

庭霞
千鳥

月前千鳥

霞　為氏
霞　信綱
霞　家隆
霞　雅経
霞　大輔
霞　右大臣
霞　長方
霞　仁和寺宮
霞　勝命入
霞　後恵入
霞　土御門内

弦月千鳥　建保百首　信實
風千鳥　後鳥羽　西家
曉千鳥　後鳥羽　定家
曙千鳥　後鳥羽　定家
朝千鳥　後鳥羽　家隆
海朝千鳥　後鳥羽　家隆
夕千鳥　後鳥羽　園相
夜千鳥　後鳥羽　雅経
寒夜千鳥　後鳥羽　雅経
除夜千鳥　後鳥羽　定家
絶夜千鳥　後鳥羽　定家
千鳥驚眠　後鳥羽　定家
寝覚聞千鳥　後鳥羽　定家
月前千鳥　後鳥羽　定家
風前千鳥　後鳥羽　定家
聞千鳥　後鳥羽　定家
遠千鳥　後鳥羽　定家

近千鳥
名所千鳥
湖上千鳥
海辺千鳥
渓千鳥
浦千鳥

代 大波立て河のべの澄江鶯なくなり及べぬ芦の千鳥哉
月 極楽寺の鐘の枕の千鳥哉
仝 村千鳥立ちかねて名残惜しく
万 さらぬ川の千鳥哉
拾 名残惜しき川の底の川竹の友まどはせる千鳥哉
後拾 夢の通ひ路の川辺の千鳥哉
代 小夜中と鳴く友なしの千鳥哉
万 さびしさの川の瀬の千鳥哉
新 月の出の海の千鳥哉
代 月冴えて波の千鳥哉
千 紅葉の錦の嶋のかたくなる嶋の波の千鳥哉
代 月さかる夜の湊の千鳥哉
代 夜更くるまで波の千鳥哉
十 鳴くなる友なしの千鳥哉
十 鳴くするを聞くは千鳥哉

川立ち
長明
家陰
不載詠者
友則
孝善
雅家
人麻呂
通光卿
牧四
俊保
信実
那仲
為世

磯傳千鳥
濱千鳥
磯千鳥
崎千鳥
島千鳥
浜千鳥
浦千鳥
葦芦千鳥
千鳥驚波

代 沖つ風分ける袖に千鳥哉
千 宮敷る袖波立つ上千鳥哉
野 まてかり浦にて浦に千鳥哉
代 浦風に吹こそ千鳥哉
代 風さわぐ夜の村雨の立岩に浪ぞ千鳥哉
代 友呼ぶ浦の千鳥哉
金 風吹くまでまぎれぬ千鳥哉
代 波低き夜の風に千鳥哉
月 さと吹く月をみる浦の千鳥哉
仝 立帰りまたこそ浦の千鳥哉
新 友千鳥笠に波の千鳥哉
代 風さわぐ袖の浦の千鳥哉
代 海人の袖に波の千鳥哉
千 鳴く海人の袖に波の千鳥哉
代 しれてあるものの袖に波の千鳥哉

舞台
乙因
長生
紙伴
季経
俊臣
頼仲
為り
亦慶
後宮大
国臣
歌国
吳辰
仁智法整

千鳥鷺船

海鷗千鳥

船中千鳥

旅泊千鳥

旅者千鳥

潮鳴千鳥

り鳴千鳥

千鳥白跡

千鳥鳴

夜千鳥

水鳥

夜れ鳥

寒き夜水鳥

原鳥千鳥

月夜れ鳥

寝覚ぬ水鳥

夜田に鳥

朝千鳥

夕水鳥

水鳥

水鳥掛け鳥　男　時雨の比時代代ふるそでぞぬるるものぞかなしき　せどうら

代　ちすぐら時代と掛け子義経の亟小うもと愛

拾　小ちゐ代ぬのちまふとぐられて引もの寄ふ代ぬ

代　ふ代ふと人皆の浮巣の中れまてすてとそれやこ遠れ

水鳥近則　水鳥　金　三条院萬の拾遺のひどふ明どの寄れ代とそ多きね

水鳥多し　波枕いふ浮ものを定代遠ふ代ふ

他水鳥　代　ちゐの浮ものの寄や荒ねんたくるかうちゐ代ふ

葦有れ多　代　鳥津風　多　代　ふ三条院の引えれ萬ま志めて時や

水多　遊　葦　千　鞆波ぐ入代ぬぐる萬時の引代林小浮ものをもも

隠四水鳥　代　海ちの寄ふれば一代ひとりで行るふ山ぬ代ふ

寄ふ多　続　岩川のうきふ賤ふと時代ふ代ふ代ふ代ふ

仁れ多　代　萬ちぐ遠風ちうこ代の入代ふつ代ふの村多

鳥ふ多　風と寄る浦の濃の汐先ふ波のう越代うもの時之

土佐流夫

仁家

好丞

軽田

依性等遠

内侍

経房

家俊

源補

経国

仁和寺

堀川

土佐氏

鳥水多

鳴　千　鳴代ふ代ふ代ふ代ふ

月照紅葉

紅葉留紅葉

名所紅葉

紅葉惜

寄紅葉述懷

雲

初雪

朝初雪

夕初雪

山初雪

山路初雪

峯初雪

杉上初雪　　藤原孝時朝臣

い[illegible]初雪　　[illegible]

[illegible]雪

曉雪山雪　　[illegible]

暁雪　　[illegible]

朝雪　　[illegible]

夕雪　　[illegible]

夜雪　　[illegible]

夜里山雪　　[illegible]

里似月　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪ハ花ニ春花

雪ハ梅ニ

梅枝雪撓

山雪

山中雪

深山雪

遠山雪

嶽雪

峯雪

岩雪

林雪

雪陽高根

雪満羣山

岩山雪

物語とたかいたうの消んうでの山嶺かすれてたる白雪
万葉 ほされいかををしき園れの山の木ごかに雪で降る
代 いう計たるいびの雪うれば木葉ゆかてそ人のい絶
物 雪小平の梅いきしうどそたとえずいしれの山
形 玉程張の美色を元ねをさ世の冬世い雪降かうう
万 ちうる黄ゆ小雪ゆ折梅ひかたびうる世語れ結べ
代 大昆まぎの系よ降雪いきくをちて家もゆうをくか
千 元雪ゆ風むびさえうう系よ雪いちたの
形 をゆ雪るゆ世の和語語張て流くも雪れ集ゆうう
万 ちびさ成いふをとて異びる橋れきぐう雪れ降絶
万 松ゆ雪梅ゆちる雪梅ゆ雪人ゆ歌の分ゆくぐうん
物 雪木り松ゆ人ゆ語れ梅ひびう松系雪ゆうくて
後拾 雪降またかびちうれ山里ゆ家ちう先ゆ人ぐう後
同 いう計降雪ちれば雪ゆ雪ゆ雪ゆまれ里ゆまびうん

山深雪　　花宗
鶯雪　　鶯人不知
原上雪　　塚川老
駒徑雪　　佐渡
聖高雪　　菊蓋
松雪　　重班
山路雪　　金人娘子
　　良清
　　為季
　　國房
　　後宋
　　七方
　　經國
　　國房

山路雪深い　　經信
　　延季
　　釈空
　　白川院
　　雲女
　　ちう雪
　　用院橋四
　　ゆ雪
　　内大臣
　　慶尋△
　　後嵯
　　西行△
　　佐恵

山路雪深い　　続
　　代 ちう山路ゆ絶りへ人の雪ちうる白雪ゆ重
　　本 家雪ゆ小ちうぐうそ雪ゆ降つ
　　代 ゆ雪ゆ雪ゆ雪越てそ見れ絶ゆをうで絶ゆ
　　続 詠ゆうく雪降ちる山路ゆ家独りゆ絶ちうゆ
雪埋山路　　千 路雪張ちちゆ雪小埋れて降ちる山路ゆ遠ひ絶ちる
　　日 ゆ山路ゆ人ゆ雪小埋れていぐう絶れ雪ゆ
　　代 わうぐゆ山雪ちうゆ雪ゆ
　　今 ゆうれ絶ゆいとゆ雪絶れ人ゆ絶ぐゆ
山樹雪　　新 雪れ絶ゆぬねとちうゆ雪絶れ小ゆ雪ゆ
嵐雪　　千 ちうゆ雪小絶張れゆ絶ん笑れ白雪
雪路雪　　後拾 雪ゆ通いうえぐ雪絶降ゆ
行路雪　　代 ちうゆ人ゆ雪ゆ雪ゆ解ちうゆ人ゆ絶ん
り路深雪　　千 絶れ絶ゆ人降雪小埋れて山里小深ちうぐゆ雪ちう
　　拾 雪ゆ絶ゆ人降雪小埋れてちうゆ人ゆちうまぐうん
谷中雪　　我 絶ちうれ山路小ちうぐう雪ちうゆ路をちうゆ

歌書雪

雪中旅り　　國至

馬上雪　　後亜

古溪雪　　りま

橋上雪　　宣方

雪埋古橋　　屋張

水邊雪　　常久

氷上雪　　原貞主母

池邊雪　　法橋玄覺

浦四雪　　源昭

浦雪　　貫吉

濱雪　　名吉

湖邊雪　　賴經

名所雪　　良佐

伏見里雪　　赤人

里雪　　中納言

山里雪　忠岑

山里住雪　左衛

山居雪　益房

山家雪　伊勢

山家雪消　後撰

山里の雪ふかしとは人にしらせじ　古今

山家雪朝　後撰

山里の雪ふかしとは人にしらせじ　古今

山家掃雪　後撰

山里は雪ふる人もとふたまれ　千

不居雪　紫式部

朝戸あけてみるべきまでの橋の庭雪ふかしとは　紫式部

庵雪　清原元輔

清原元輔の人をとふ山里ふかき雪　後撰

山家若人雪　後撰

若人とふ雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

雪埋屋　後撰

雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

庭雪　紫式部

庭の雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

庭雪　紫式部

庭雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

洛陽雪　義圓

人のいまもきてやみるらむ　後撰

林中雪　紫式部

雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

古宅雪　紫式部

雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

故郷雪　紫式部

雪ふかしとは人にしらせじ　後撰

故郷雪深　野
社頭雪

社邊雪
雪中古寺
森雪
山林雪深
岩根樹雪深
雪埋樹
樹陰雪

雪混落葉　野
雪埋落葉　羽
松と雪

雪埋古松
松雪深
雪埋松樹
雪埋庵松
松と雪　野
雪作松樹花

雲蕗長松代
松雪

雪埋竹
竹雪
雪蕗衣

排頭菊雪
雪中興

雪山雪
雪中紙生

雪中遠生
雪相鮫生
雪中遠情

雪中遠人

雪中待友

雪中無来客　訪人　雪中尋人　雪中寄来　友待雪

雪中懐人　高雪傍老　雪中幽思

雪中延思　書相模老　雪中述懐　高雪述懐　雪中述懐　高雪祝延　雪知豊年

茶筌雪　讀人不識
野行幸　仝

鷹狩

朝鷹狩　長崎
夕鷹狩　也純
暁方鷹狩　秀安
鷹狩日暮　雄仁
ねと鷹狩　寒園
　　ちかい境
　　後牧
　　仲愛
　　て衡
　　法性寺入道

雪中鷹狩　後拾
野鷹狩　後朱
狩場霧　蓮生
澤鷹狩　後朱
炭竈　蓮生
朝炭竈　後朱
炭竈焼　蓮生
炭竈雲　後朱

豊中炭竈

深山炭竈

里山炭竈

岩炭竈

埋火 炉火同

夜炉火

埋火

豊明節會

居日節會

五節舞姫

かぐら 榊樹祭

源河祭 墨立

神樂（カミアソビ）

古神道の三家の山代神楽は神の降りわひかろ　讀人不知

〃家元びとどれとぬ神楽の直さ多ぶ（ま神はきるのん

〃まぶくのわすれの山ぐと人とるぶ山ぐぜと

〃こしよ八農塩ろうとこるまを泥のぐ家紋かろ

〃諸実の安遠のとう家ひろば寿きとりこ恵ひく

〃家いの板井は出ある里遠こ人くまのぐ家は かろ

指さく米楽かもつてうくく泥世かる神は降かる紋絡ん

〃神楽の雲紋ぐりことめれば氏人そまとねうる

〃こそぐふうよう地をこ神のこえかとれてうづきハ

〃みてぐこハ家ハいわず天かまも世間作の神のこそ

〃相坂紋を郷ぐれいこの子車はこそきれる杖ぐこ

〃こ人この家とこるちと神の降かこ人まる

〃石ふるぐとこのこらばら組ぐて変遠面ん

〃ひろ〇祖貴の太かはこぐ泥てこうこれ紋初白八泥ぐ

雪中神樂

禁中秋景

〃家弱ハ多くゆうん天ひろぐ人ますをうれかこ

〃さいぐろ小家ハすしむ多ぐれど稲ひぐう源く深た

〃足くの山代神楽と泥ひるる法かさうる神はま〇ろ　巻之

金

〃神楽やたまく神の遠代小麓ろ和神八多ぐ人　家貴王母

〃神ろぐの三家の山小家れ代ばゆ天ぐ人神楽ぐ

〃家柏やうた麓山代ぐでかさとぐ家ぐ神は実づこ時

〃神楽代とかかわ代ばもうく小家光ぐる神はま〇

〃秀ろく稲ぐ多ろ足くれ山人とぐとろぐうる　変巻八

〃車ぐ小神代ぐいのる神楽代ぐ多ぐ稲ぐ実ぐわんとこ八いい世　巻四

〃墨れく雲代をかかもうくく小麓ろるわろ里は秀　貴興

〃そはくこの光ぐうぐ小光濃て新さえ光ぐるぐ多家人　伊季

〃神楽小多くぐうそろる紋小麓代人神小麓代ぐさえ濃ろ　色選八

〃神楽小強代をくて神もろる麓　河内

代

〃大人ぐまとろる　通方

夜神楽

自分神楽

里神楽

俳名

雪中俳名

俳名訓

早梅冬梅同

雪中梅花

早梅

梅花先春

梅早待春

梅先春近

歳歌暮

暮春

代 うらかぜに紅ゐの花ぞこゝ大きうさけ　後鳥羽

詞 神代すぎ手まを神かぜ吹うてゐるまぐこと　柳尹

詞 生田の宮まぐ源く至紅の月影ゆる雑らう代　通具

代 庭火くわをうをかるこ至紅の袖ぬ月代紫袖覚　こうの八乙

詞 黒神楽花を小者流てを和の神花を神さぐ小ぐう　共又節△

詞 人はそうしやもうん先れい年代を稽る者と社れ　無生

年代内小紀れる花いろ代てう降白者と代小消ん　芭蕉

いきの白紅と花ゆ冬八皆名代を源ま花ゆ名ねう　芭蕉

詞 春うべ小源うて冬ぐ小者ていてとぐ　其之

詞 紅梅ゆう冬ま梅八咲小ゆう春小達んとい　公

詞 降者八ゆ冬ん梅花ゆる小まどうずれてふん　

千 里代梅の梅八咲小ゆう者神社花も白ゆ　時快△

続 者代降の梅八咲小ゆう者神社花も白ゆ　聖方

詞 梅ゆ者代降ゆる者小まぐひとべ飛ゆとぐ代て　芭蕉

梅代花それゆ冬代ぐ代ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代　徳人

花の色八者小まぐて冬代ぐ小者代人代ぐく　小野篁

詞 いぐ世ぐゆ代て梅ゆ梅花校ゆ者代者小ゆ代ゆ者　さね

詞 梅ゆ降ゆ代ぐ梅花の代ゆ者代花の代ゆ者　芭蕉

梅者者ゆ代ゆ代ゆ者ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代　徳人

詞 うめ代ゆ者者ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代　芭蕉

者代花ゆ匂ゆ源く代ゆ代ゆ春代源の者代ゆ代　元義

千 者小者ゆ者ゆ源ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代ゆ代　相模

詞 数ゆ者ゆ者小ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者　慶吉

詞 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　て光

詞 数ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　俊恵△

月 り年の者ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　昌俊△

詞 ゆとうく者ゆ月日小年者代数ゆ者ゆ者ゆ者　牧生

詞 者人代分ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者　紅輔

続 者代ゆ年代者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ者　爽清

代 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　濃性寺入道

惜歳暮

年惜歳暮

傷歳暮

驚歳暮

悔歳暮

送年

古い年のすくなくなるを惜しむ　学び
金人去れば暮りて小惜まれぬべし　家を
月暮りを印むかのつるんが家分小年いとなるやう　治付
野々人ごとに小家の浪と惜わせ又もと年小あひなるかな　侯生
代々人ごとに小家の浪と惜わせ又もと年小あひなるかな　家産
鈴木の分小年とて小の分小年の暮の郷　亟楠
月ゆくてびまち小ゆるぞ世の中　検ちり家でそれん　実紀
代いきづく小ふるる月日いさを小の分小年　雅楽
野々人ひとて小分小年と知るべき暮の年代小ふるん　左衛門
月つくて暮り年代小ふるえます　牧佐
代年いとや々人の沿小年小ふるるてふ世しきん　去の花
検ちり年とおよりん　名長
月年とおる小年とおるる年代小ふるてふ世しきん　少勢
月年とおる小年とおるる年代小ふるてふ世しきん　右大臣

歳暮忙しとは世のなかをいかでかむかいそぐ年代暮るらん　家産
名の暮の代小ふるとおるてふ世しきん　侯生
るでもかく年とおるべきとおるの暮ぬるとおるん　侯生
雪の暮の暮ぬるとおるの暮ぬるとおるん　能宣
年月とおるの暮小暮をおるる年代暮るる　侯人
花とおる暮とおるとおる年代暮ぬるとおるる年代暮ぬ　侯人
雪与歳深　ちるの年とおるる小暮ぬる我分とおる年代暮ぬ　侯人
雪中送年　千代暮しぬるとおるる小暮ぬる年代暮ぬ　元方
暮の月　お暮くるとおるる年代暮ぬ　無長
歳暮梅　野暮ぬるとおるる年代暮ぬ　伊カエ
暮の花　古雪降て年代暮ぬる月小年とおるる暮ぬ　面影
河歳暮　野とおるる梅の川代暮ぬ　蔵人
暮の暮る筏　野年代暮ぬる年代暮ぬ　侯伯大
海四暮暮　野い年とおるまは暮の年とおるまは暮ぬ　家巡

代 [illegible]の岩点のぢりとる波はやくも過る年は嘗れ　候岐
[illegible]のけを二　古 はるとしたりて春の川流れて春の月日やそう　列樹
歳暮急於水　物 元名川春の渕淵も[illegible]せくうち[illegible]年は嘗い　如彩△
[illegible]　物 [illegible]の氏嘗り年は歌ひ[illegible]　陸氏
[illegible]　物 [illegible]の[illegible]川[illegible]　鍾志
寄物歳暮　形 [illegible]波越る分社[illegible]　舞蓮△
寄浪　形 [illegible]流てすき年[illegible]　二石駅王
寄重　形 [illegible]年は嘗い　俊宋女
代 [illegible]月日の嘗と[illegible]年は[illegible]　頭具
寄木　新 [illegible]　家持
〃 [illegible]　歌り△
寄夢　代 [illegible]年の[illegible]　赤塗
寄玉　形 [illegible]年の[illegible]　[illegible]
　　俊宋

寄[illegible]　古 [illegible]年の[illegible]　定家
寄物　形 [illegible]　宋尊
閑中歳暮　的 [illegible]年は[illegible]　釈蓮
〃 [illegible]年は[illegible]　八[illegible]
〃 [illegible]年の[illegible]　三宝
金 [illegible]年は[illegible]　り純
老人惜年　代 [illegible]年は[illegible]　永実
老傷歳暮　形 [illegible]年は[illegible]　和[illegible]
〃 [illegible]年の[illegible]　小侍従
代 [illegible]年は[illegible]　信生△
〃 [illegible]年は[illegible]　西行
〃 [illegible]年は[illegible]　陸奥
歳暮述懐　〃 [illegible]年は[illegible]　俊宋

歳暮感懐　光り

歳暮思着　慈園

歳暮懐旧　慈信

歳暮待人　為世

歳暮惜別　為信

歳中歳暮　為仲

歳宿歳暮　師光

歳暮祝　師光

待春　家持

梅花待春　内大臣

不逢待春　慈円

植梅待春　師光

除夜待春　読人しらず

春ト謎　大輔

雑歌　藤命

二条院王

慈円

園信

情深夜　花笑　古信人
夢深夜　論圓　山下
傷隙夢　山下
昨夜傷　春笑
雪中除夜　春笑
禁中除夜　信人
野外除夜
魂祭
冬至

冬星
冬日
冬雲
冬雨
冬雪
冬風
冬嵐

冬朝嵐
冬煙
冬焼
冬霞
冬夕
冬夜
冬夜長
冬夜雛
冬寝覚
冬地儀
冬山
冬深山
冬野
冬紅葉
冬園
冬川
川冬
冬深草
冬熊
冬岩

冬海邊　家主
冬浦船　俊秋
冬漁火　内大臣
水鶏冬　俊為
冬舟　宗祇
松郷冬　宗牧
古江冬　宗長
冬社頭　宗碩
宗為冬　宗長
冬田　宗碩
冬山田　宗長

冬田家　宗牧
山家冬　宗牧

山家冬煙　宗牧
冬山居　宗牧

冬閑居　宗牧
冬家　宗牧
冬庭　宗牧
冬籠　宗牧

冬衾
冬衣
冬植物
冬木
冬煙草
冬花
冬蔭
冬虫
冬獣

冬鳥
冬鷹
冬ゝ鶏
冬鶯
冬雀
冬蝶
冬人ゝ
寒閨独臥
冬籠
冬夜読書

冬籠り　冬旅　冬別　冬餞別　冬眺望　北郷冬望　冬遠望　冬香　冬色

冬寺

冬鐘　冬夕鐘　冬幽恩　冬木懐

奥釋敬
奥計紙
矢ヶ祝
十月

同十月
中一月
十二月
同十二月

[illegible]

四年の新編を仮文字にて
文化四年十一月訂正　花川廣詳

書肆

京都三條通升屋町　出雲寺文次郎
同　寺町通松原下ル　勝村治右衛門
大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
同　安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　本町通横山町壹丁目　出雲寺萬次郎
同　芝神明前　岡田屋嘉七